章が見える。

#### 資料紹介

## 佐賀大学蔵今泉蟹守関係資料

#### はじめに

『鴨川三郎集料歌』の中に、古川松根を紹介した周防の国学者鈴木高鞆の文隣諸国に知られていたようである。例えば台湾大学長沢文庫に所蔵される松根であろう。古川松根については近世末期においてもその名はすでに近松世末期の佐賀を代表する歌人といえば、まず挙げられるのは古川与一

ある。

うに全国的な規模で販売された類題和歌集に自分の歌が載ることは、地方 歌を彼の紹介文とともに送ったものである。当時、『類題和歌鴨川集』のよ らうために、『類題和歌鴨川集』の編者である長沢伴雄へ鈴木高鞆が松根の なとつとして挙げられる『類題和歌鴨川集』の第三編三郎集へ入集しても のより、『女性後期に流行した類題和歌集のうち、最も版を重ねたものの

### 亀 井 森

が伝わってくる。

期の佐賀を代表する歌人の名も見える。それが本稿で紹介する今泉蟹守でさて、この『類題和歌鴨川集』には、松根とともに近世末期から明治初

今泉蟹守は、文政元(一八一八)年三月一日生、明治三十一(一八九八)今泉蟹守は、文政元(一八一八)年三月一日生、明治三十一(一八九八)中り、その収録された時代は明応六(一四九七)年から明治十年代という中世・近世・近代期の四百年間にわたる。その他『樟葉三十六歌撰』『樟葉十家歌集』『樟葉百歌撰』などの編著がある。学統については不明な点も多いが、嘉永二(一八四九)年三月に本居内遠へ入門した記録が残る(東京大が、嘉永二(一八四九)年三月に本居内遠へ入門した記録が残る(東京大学本居文庫蔵『内遠翁門人録』、国文・青七〇一二三三)。

月)が備わる。志津田氏は前掲『今泉蟹守歌文集』の編纂作業にも関わっ津田兼三『蟹守さん―歌文集に見るその生涯』(佐賀新聞社、平成十三年七り前掲『類題白縫集』などが収められている。また蟹守の伝記として、志『今泉蟹守歌文集』(昭和四十六年二月)が公刊され、蟹守の歌文はもとよすでに蟹守については、元佐賀大学文理学部教授中原勇夫氏によってすでに蟹守については、元佐賀大学文理学部教授中原勇夫氏によって

ておられ、中原勇夫氏の後を受けて蟹守の伝記をまとめられた。

上記二書においても指摘されているが、蟹守は自身の記録や行状を書きある。前掲歌文集の編者中原勇夫氏は「解説に代えて」で次のように述べある。前掲歌文集の編者中原勇夫氏は「解説に代えて」で次のように述べある。

くなかったようで、ひとり営々と典籍類を集め、 広く聞えていたもの、ようであるが、(中略) 性格は純朴で、交友は広 子弟に国学、 に深く浸透したかどうかわずかに疑問があり、 らを纂撰することを楽しんだと思われる。従って彼の文名が藩の各面 蟹守は高木瀬 流行することを欲しなかったかと考えられる。 和歌を講じた。その為か当時、 (長瀬) 村、 大願寺村に私塾を開き、 蟹守の名は佐賀藩近隣に 彼自身、華やかな名声 (十五頁 歌集類を探り、 佐賀、 小城両藩の それ

このように郷土の文事を教導した人物を学術的に位置付けるのは難しこのように郷土の文事を教導した人物を学術的に位置付けるのは難した。その人物の評価を下げることが往々にしてあるからである。しかしながらそれを敢て行うことが地域学における今後の役割のひとつとなるだろう。それを行うためにはまず資料の整備が必要である。蟹守研究はすでに十分な資料および解題、そして伝記が備わっており、本稿もその先行研究の恩恵を受けて稿を成したことは言うまでもない。しかし、現在でも未発の思恵を受けて稿を成したことは言うまでもない。しかし、現在でも未発の思恵を受けて稿を成したことは言うまでもない。しかし、現在でも未発の思恵を受けて稿を成したことは言うまでもない。しかし、現在でも未発の思恵を受けて稿を成したことは言うまでもない。しかし、現在でも未発の思恵を受けて稿を成したことは言うまでもない。

ばならぬ。(同書十五頁) たねばならぬが、資料が多く散佚して、所在不明なのは遺憾といわね蟹守の、文学者として、歌人としての資質については今後の探究に俟

る発見・紹介がなされていくことを祈念する。紹介するものである。本資料紹介が一つの緒となり、蟹守関係資料の更な本稿は今後の研究に資すべく、佐賀大学に新しく収められた蟹守資料を

### 〈久原萩子氏寄贈今泉蟹守資料

に既に翻字されており、今回の資料紹介には割愛する。よって本稿では久 7 庵の記」(明治二十九年今泉蟹守写)は、田中道雄佐賀大学名誉教授によっ おぼしき書入があり、 子氏は幼少の折、蟹守から直接、源氏物語の講義や詠作の指導を受けて まれており、その内、 たという。今回は紹介しないが、 に拠れば、この寄贈品は久原萩子氏が母峯子氏から譲り受けたもので、 十九点が寄贈された。当時の佐賀新聞の記事(同年六月二十八日、十二頁) また寄贈品の内、鶯舌亭楽貧梅翁 平成七(一九九五)年六月、佐賀市久原萩子氏より今泉蟹守関係資料四 『佐賀県近世史料』第九編第一巻 蟹守の指導の様子が窺える資料となっている。 四葉が峯子氏のものである。 四十九点中、 (佐賀県立図書館編、 (十編舎一九・蒲原大蔵) 作狂文 蟹守の門人の短冊が十葉含 短冊には蟹守の添削と 平成十六年三月 一草

和歌短冊 三十七葉(911.1/143)

原氏の寄贈品四十九点の中から以下の四十一点を紹介する。

和歌半切 三点 (911.1/143)

自筆懐紙一枚物〔紫式部を讃える文〕 一点(910.2/Sh32)

### (市場直次郎コレクション所収今泉蟹守資料)

て市場直次郎先生の大型コレクションを購入した。市場直次郎先生は明治平成七年の久原氏の寄贈の後、佐賀大学は平成十三年から十五年にかけ

ションの中にも柳田国男からの書簡が残されている。を続けられた。特に民俗学においては柳田国男に師事、市場直次郎コレク大学・大学などで教鞭を執られ、近世文学と民俗学の二分野にわたる研究三十七年生、平成八年没、九十二歳。島根県出身。北部九州の高校・短期

小城高等学校校長などを歴任された。和二十三年の新制高等学校発足とともに佐賀県立鹿島高等学校に着任、同和二十三年の新制高等学校発足とともに佐賀県立鹿島高等学校に着任、昭なられ、後に旧制佐賀高等女学校最後の校長を務めておられる。さらに昭市場先生と佐賀との関わりとしては、昭和十八年に佐賀師範学校教授と

三年)などがある。 年)、『筑紫路の絵馬』 佐賀』(第一法規、 同 (文泉堂、 主な著書に『廃頽大津絵節』(発薄堂書院、昭和三年)、『世間胸算用全釈』 昭和六十二年)、 昭和十年)、『豊後伝説集』 昭和四十七年)、『豊国筑紫路の伝説』 (西日本文化協会、昭和四十九年)、『ふるさと扇面譜 『西日本民俗文化考説』(九州大学出版会、昭和六十 (同研究会、 昭和六年)、 (同、 『日本の民俗 昭和四十八

介する。紹介資料は次の通りである。

一月)を参照していただきたいが、本稿ではその中から蟹守資料四点を紹コレクション目録』(佐賀大学地域学歴史文化研究センター、二○○七年十コレクション目録』(佐賀大学地域学歴史文化研究センター、二○○七年十コレクションは、近世前期、十七世紀後半から明治・大正・昭和にこのコレクションは、近世前期、十七世紀後半から明治・大正・昭和に

和歌五首一枚物 一点(色紙・軸物類91、目録通番59)

和歌掛軸 一点(色紙・軸物類17、目録通番681

和歌短冊 二葉(短冊23・24

#### 註

- 紙。原表紙には墨書打付書にて「鴨川三郎集料歌 玉石二編えり残」とある。一・八糎、四十三丁。本書は台湾大学受入後に改装されているが、原装は共紙表一・八糎、四十三丁。本書は台湾大学受入後に改装されているが、原装は共紙表一・八糎、四十三丁。本書は台湾大学受入後に改装されているが、原装は共紙表一・八糎、四十三丁。本書は台湾大学受入後に改装されているが、原装は共紙表一・八糎、四十三丁。本書は台湾大学受入後に改装されているが、原装は共紙表一・八糎、四十三丁。本書は台湾大学の表書の一部が収められていることは知られている。日記(1)台湾大学に長沢伴雄の旧蔵書の一部が収められていることは知られている。日記(1)台湾大学に長沢伴雄の旧蔵書の一部が収められていることは知られている。日記(1)台湾大学に長沢伴雄の旧蔵書の一部が収められていることは知られている。日記
- 四十九歳。 四十九歳。
- 二〇〇九年七月)。出稿「近世後期類題和歌集編纂の一齣」(「近世文藝」第九十号、日本近世文学会、出稿「近世後期類題和歌集編纂の一齣」(「近世文藝」第九十号、日本近世文学会、

3

## 今泉蟹守和歌短冊 三十七葉(911.1/143)

\*中原勇夫編『今泉蟹守歌文集』(昭和四十六年二月、私家版。以下歌文集とする)に掲出される歌および関連する歌については、その掲載頁を示す。

1

道

外にまた何をもとめむ敷島の みちの道の誠ぞ人の道なる

七十七翁 蟹守

未通女子がかすみの袂にほふなり 春のうたよみける中に

朱雀大路の春の夕ぐれ 蟹守

歌文集二十一頁「短冊詠草」に「春のうたあまたよみける中に」と題して同歌を収録する。

亀菊

こぼれてや世のみだれなりけむ 大君の御袖に余るきくのつゆ 蟹守

62

2

3

歌文集七頁「短冊詠草」では「亀菊 大君の御袖に余るきくの露こぼれて世こそ乱れそめにし」

が収められる。第四・第五句が異なる。

歌文集十六頁「短冊詠草」に同歌を収録する。

5

常盤前

ち代を常盤のまもりなりけり 下をれて雪になびくもたけの子の

歌文集三頁「短冊詠草」に同歌を収録する。また同三十六頁「鞆屋詠草」にも同歌を収める

が、歌題は「祗玉祗女仏」。「玉」は誤植か。

祗王祗女仏

咲はなのみやこをよそのさがの野に おくれてかりも来てぞなくなる 蟹守

小宰相

それととはれしふみのあるじを 蟹守 我ひとりかへす言葉もなかりけり

のあるじを」とある。第二・第三句が異なる。 歌文集十七頁「短冊詠草」に「小宰相 我ひとりかへす言葉のなきぞうきそれととはれし文

7

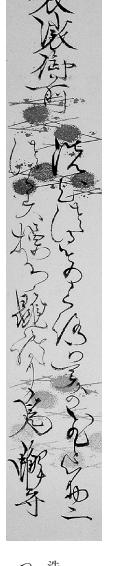


歌文集十七頁「短冊詠草」に「静」と題して同歌が収録される。

8

静女

くりかへす賤の小田巻返しても かへり来る世ぞ身の恨みなる 蟹守



袈裟御前

洗ひつるそのくろかみのひと筋に つくす操は顕れに鳧 蟹守

歌文集十七頁「短冊詠草」に同歌を収録する。



日本書紀を」とある。第一・第二句が異なる。

歌文集十六頁「短冊詠草」に「紫式部

名に負ふもゆかしかりけり益荒雄もたやすくよまぬ

紫式部

名に負し君ぞゆかしきますら雄も たやすくよまぬ日本書紀を

七十有九翁 蟹守

64

歌文集十六頁「短冊詠草」に同歌を収録する。

12

歌文集十六頁「短冊詠草」に同歌を収録する。

天武天皇

かる、もをしき女良花かな 蟹守

道奥のこさふくかぜの音づれに

田道妻

大みこ、ろはかみの御こ、ろ 蟹守よしあしを何とかいはむ大君の

中将実方卿

かげは雲ゐに及ばざりけむ 蟹守たづねわびしあこやのまつにてる月の

尋ねわびしあこやの松に木かくれてかへらぬ月のかげぞかなしき」が収録される。 歌文集十七頁「短冊詠草」に同歌を収録する。また同十頁 「短冊詠草」には「藤原中将実方卿

佐賀大学蔵今泉蟹守関係資料

歌文集十頁「短冊詠草」および同十五頁「短冊詠草」にも同歌を収録する。

15

ム文を置けるうち

THE REPORT OF THE PARTY OF THE

田道

きみがいかりのいぶきなるらめ 蟹守蝦夷らをあまた斃せてをろちこそ

藤原広嗣

理りはちょにありてもいかにせむ

弘文天皇

大君の大みひかりにかゞやきて

歌文集十六頁「短冊詠草」および同三十六頁「鞆屋詠草」にも同歌を収録する。

歌文集十頁「短冊詠草」に同歌を収録する。

18

17 さし神のしわざは」とある。歌題と第三句が異なる。 歌文集十五頁「短冊詠草」に「武内宿祢大臣 いそのかみふりにし跡をくかたちのまさしやま

まさしやまさしし神のしわざは蟹守

いそのかみふりにし跡をさぐり湯の

武内宿禰

博雅三位

残すことなくてと得てし木はた山 ふかくいりにしきみが誠を 蟹守

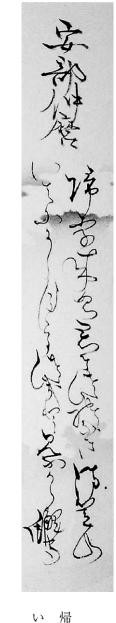
よの人を夢となしつる夢殿の 上宮太子

その戸ひらきし君ぞあやしき

やしき」とある。 歌文集十五頁「短冊詠草」に「上宮太子 世の人を夢となしつるいめ殿のその戸開きし君ぞあ

歌文集四頁「短冊詠草」に同歌を収録する。

21



20

安部仲麿

帰り来ぬ君ぞつれなき御笠山 いでにし月をつきと見ながら

舎人親王

万代の御のりと仰ぐ日本書紀

などからざまにかきは伝えし

歌文集三頁「短冊詠草」に同歌を収録する。

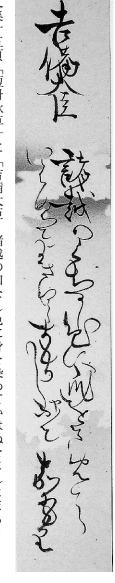
和気清麿卿

大王の御代のつぎ~~ふみとめて いさほはたかし万代までに

七十有九翁

68

23



歌文集十五頁「短冊詠草」に「吉備大臣 しやなぞ」とある。第四句が異なる。 諸越の口なし色に身を染めていはぬをよしとまもり

吉備大臣

いはぬぞよきとまもりしやなぞ かにもり諸越のくちなし色に身をそめて



に鹿の声のみにして」とある。第三・第五句が異なる。 歌文集十頁「短冊詠草」に「猿丸大夫 九十九翁 その人とさしてしらぬぞいとをしきかすか

猿丸大夫

かすかに鹿の声は残れど かにもりその人とさしてしらぬぞうらみなる

から、うるかということのことというからなったというける

歌文集十四頁「短冊詠草」に「春のうたあまたよみける中に」として同歌を収録する。

小年魚つる子にいざなはれつ、 蟹守けふもまた河辺にたちぬともすれば

佐賀大学蔵今泉蟹守関係資料

けふはまた海公のたく縄ひきはへて海松和布の浦に若菜

海辺若菜

けふはまた蜑のたく縄引かへて 海松和布の浦に若な摘らし



「文月八日の暁がたに」と同歌。歌題のみ異なる。

31

27

朝顔の笑るもねたし棚ばたの 七夕別

けさの別れをよそに見なして

歌文集十九頁「短冊詠草」に同歌を収録する。また同三十三頁「鞆屋詠草」にも同題が収録される

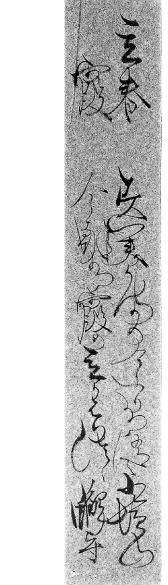
が、第三句が「里の戸も」と異なる。「里」は誤読か。

夜梅

さ、れぬばかりにほふ夜はかな 月はかすみ梅はかをりて閨の戸も

70

29



すみがまのけぶりは消て小塩山

立春霞

今朝は霞の立かはりつ、

けりなが瀬のさとの霞かくれは」とある。第五句が異なる。また同十頁には「春雪 天山の雪もに ほひとなりにけりなか瀬のさとの霞あくれは」が収められるが、歌題と第五句が異なる。 と題して同歌を収録する。また同八頁に「春のうたの中に」と題して「天山の雪もにほひとなりに 歌文集二十頁「短冊詠草」に「長瀬てふ里に住けるころ睦月ばかり遥に北の山々を遠く見わたして」

長瀬てふ里に住けるころ 長瀬てふ里に住けるころ

むかし恋しき宿となさばや<br />
蟹守時自くのかくの木の実を庭植て

佐賀大学蔵今泉蟹守関係資料



26「七夕別」と同歌。歌題のみ異なる。

32

けさの別れをよそに見なして 朝顔の笑るもねたし棚ばたの 文月八日の暁がたに

蟹守

歌文集六頁「短冊詠草」および同十頁「短冊詠草」には「夕霍公」として同歌を収録する。

影よりひょく山ほと、ぎす 蟹守 ほのぐくとにほひ出たる三か月の

夕郭公



歌文集六頁「短冊詠草」に同歌を収録する。

くもまの月になく郭公 蟹守 一声は夢かうつ、か村雨の

霍公一声

益荒雄もたわむ嵐をしのぎつ、ひとりしほれぬ女良花かな」とある。歌題と第三句が異なる。

36



きみを忍びし名こそ有けれ 蟹守今も世に唱ふ吾嬬はせの君が

弟橘媛

歌文集三頁「短冊詠草」に同歌を収録する。また同十五頁「短冊詠草」に「上毛野形名妻

ひとりしほれぬ女良花哉 蟹守益荒雄もたわむ嵐をよそに見て



第五句が「君が操を」となっており少し異なる。

贄とさゝげし君が操はわたつみのかみもめでけむ身ひとつを

弟橘媛

七十九翁 蟹守

佐賀大学蔵今泉蟹守関係資料



小督局

なれし雲ゐの月ぞ恋しき 世のなかのうきをさが野と住なせど

七十九翁 蟹守

今泉蟹守和歌半切 三点(911.1/143)



「月前梅といふことを」は、27「夜梅」と同歌

月前梅といふことを

さ、れぬ斗匂ふ夜は哉

黄葉の題にて

織ばちる千枝の錦を龍田姫

あかず今年も又や染らむ 七十有八翁 蟹守



紙本墨書 掛幅装 縦一一五・一糎、横三十一・〇糎(本地のみ)

「照射といふ題にて」は、歌文集二十五頁「短冊詠草」に「照射」と題して同歌を収録する。

露におき雨にふしつ、よる鹿を まつの火くしに世を渡るかな 照射といふ題にて

かり捨し深田のはらの霜柱 身にしむばかり月ぞ冴たる 月前霜てふことを 七十有八翁 蟹守

のなる新年のでは、大きのでは、大きのでは、大きのできます。 明治乙未新年の勅題寄海祝と 硯をきよめて いふことを朝とく起いでつく

た、かひは浪しづまりて今年より 楫花さす来む貢船かな 七十八翁 蟹守

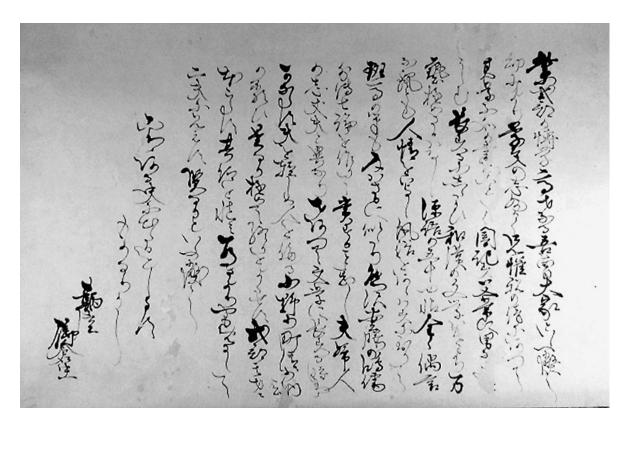
佐賀大学蔵今泉蟹守関係資料

紙本墨書

掛幅装

縦一一五・六糎、横三十一・一糎(本地のみ)





紫式部が博学高才なる吾曹大家といふべし。 場学ぶ処の書をことでくく闇記す。父常に男な□□ うらむ。長ずるにしたがひ和漢の文学はもとより万 うらむ。長ずるにしたがひ和漢の文学はもとより万 されども人情を写し、風俗をあらはすに到りて 班馬の筆も及ばざるに似たり。熊沢安藤の鴻儒 外伝七論を作りて賞すること甚し。夫、婦人 の志丈夫と異なり、才あつて文学に長ずる時は かならず夫を軽しめ、人を侮る。小野小町清少納言 にこらず、其仰を慎み、若きよりやもめにして 二夫に見えず。賢なりといふべし。

こはある史に出たるをしるす

鞆屋

御蒼生

# 市場直次郎コレクション所収今泉蟹守資料 四点

和歌五首(色紙・軸物類91、目録通番59)

紙本墨書 めくり 一枚 縦二十一・一糎、横二十八・九糎



と題して「大堰河」の歌を収録する。「涼しさ」「雨おもる」「垂髪子が」の三首、また「ほたる百首の中に」歌文集十四頁「短冊詠草」に「ほたる百首よみける中に」と題して

蛍のうた百首

藤原蟹守

八重とづる草のあみども涼しきは蛍のかげの

大堰河さゞれにすだく夏むしは天つ星もや

まのはほたるなりけり ぶしさをおのが光りにあらはしてよる行

垂髪子がとらむとすれは草の葉の露と

うらぶれて落る雫は

雨おもる新桑まゆの

和歌(色紙・軸物類17、目録通番68)

新子 in it is in it i

卷留貼紙墨書「肥前今泉蟹守伊勢参宮和歌」



「今も尚」の歌を収録する。
歌文集二十九頁「短冊読草」に「伊勢の内宮に詣けるとき」と題して

伊勢の内外の宮に詣けるとき

藤原朝臣蟹守

**孝が軒端の千木高くして** 

いのちつぐとも知る人のなきうけもちのかみの恵に世はなべて

今泉蟹守歌 雪渓画秋草ニ猪図 (短冊23) 紙本一枚 無題



咲出る 秋の七種 ふみ分て

> のとこに 来にけり

印 印

しらず伏猪

雪渓

今泉蟹守和歌(短冊24)紙本一枚

我にことたる苔の清水も ながれては人の汲までなりぬらむ 蟹守

水

(佐賀大学地域学歴史文化研究センター教務補佐員)

〔付記〕本稿は、平成十九~二十二年度科学研究費補助金基盤研究(B)「旧台北帝大に遺存する国学者・長沢伴雄の旧蔵書に関する総合的研究」(課題番号19401016)、およ

び平成二十~二十三年度科学研究補助金特別研究促進費「幕末京坂文壇の諸相解明―台湾大学「長沢文庫」・東京大学「本居文庫」調査を中心に―」(課題番号205290

05) による研究成果の一部である。